

出題分析			
試験時間	60 分	配点	50 点
		大問数	4 題
分量 (昨年比較)	[減少 同程度 増加]	難易度変化 (昨年比較)	[易化 同程度 難化]
<p>【概評】</p> <p>出題形式は例年、記号選択と短答記述の 2 つであり、今年も踏襲された。2021 年から記号選択問題にはマーク式の解答用紙が導入されている。今年は今全 50 小問中、記号選択問題が 29、短答記述問題が 21 で、昨年の記号選択問題が 27、短答記述問題が 23 とほぼ変わらない。今年とは昨年と異なり地誌の大問は 1 問だけで、日本に関する問題の比重が大きかった。昨年と同様に難しい用語を問う問題が複数見られ、記号選択問題も判断に迷う問題が少なからずあった。今年も同様の傾向が見られ、難易度は昨年並といえる。</p>			

設問別講評			
問題	出題分野・テーマ	設問内容・解答のポイント	難易度
I	東海道新幹線沿線の地形	東京駅から京都駅までの東海道新幹線沿線の地形に関する問題である。問 1 のエの砂丘は問題文をよく読めば解答でき、オの断層は養老山地が傾動地塊と知らなければ解答できない難問である。問 2 は A の箱根山の成因、C の牧之原台地の成因、F の木曾三川を問う小問が難問である。問 3 の②では薩摩藩のお手伝い普請など地理の学習分野でない事項も出題された。	やや難
II	2024 年に日本で発生した地震	2024 年に発生した能登半島地震、日向灘地震を中心とした地震災害に関する問題である。問 1 では d の原子力発電所がある志賀町がやや難問。問 2 のような正誤の組合せ問題は 2 年ぶりに出題された。問 3 の液状化、問 4 の南海トラフは確実に正解したい。問 5 の防災行動計画のタイムラインは時事的な良問。	標準

Ⅲ	東南アジア	東南アジアの総合的な自然、文化、産業などに関する問題である。問 1 は E のバンドンがやや難しく、G のカンボジアはラオスとの判断に迷う。問 2 のインドネシアの首都移転先は時事問題。問 3、問 4、問 5、問 6 の記号選択問題は基本的な事項ですべて正解したい。問 7 のシンガポールの民族構成の問題は、割合に大差がないインド系とマレー系との判断に迷う。	標準
Ⅳ	日本および世界各地の観光	日本と世界各地の観光、その中で観光客の動向や観光業の発展についての問題だが、著名な観光地については一切出題されていない。代わりに大問Ⅲでインドネシアのボロブドゥールが出題されている。空欄補充問題の問 1 の A、C、D は該当する語句を考えるのに苦勞する。問 2 の b の湯治場の出題は珍しいが他は容易。問 3、問 4 は比較的容易で、必ず正解したい。	標準

合格のための学習法

今年度は日本地誌の問題が多かったが、世界地誌の問題も少なからず見られた。そのため、日本と世界の地誌だけでなく、系統地理も含めたバランスを取った学習が重要となる。また、近年は統計問題が必出となっており、対処できるようにしなければならない。そのためには日頃から統計に触れる必要がある。市販されている統計書以外からの出題も見られることもあるので、そのような問題に対応できるように学習を進めたい。受験生の間で得点差がつきやすいのは地名に関する問題であり、教科書に載っている地名はもちろん、過去問などで問われた地名や著名な観光地、オリンピック開催地など話題になった地名なども押さえるようにしよう。合格点を取るには、幅広い知識を身につけ、地名などを的確にアウトプットできるよう、地道な努力を重ねることが肝要である。